

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：グローバルキッズ都筑ふれあいの丘園	種別：認可保育所	
代表者氏名：寺田由美子	定員（利用人数）： 77名（利用者75名）	
所在地：〒224-0061 横浜市都筑区大丸9-16 第一幸喜ビル1F		
TEL： 045-942-3366	ホームページ： https://www.gkids.co.jp/facilities/nursery_002.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2010年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 グローバルキッズ		
職員数	常勤職員：18名 非常勤職員：8名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士：20名	
	栄養士：3名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室：4	園庭：あり
	トイレ：子ども用8 大人用2	
	ランチルーム：1	
	調理室：1	
事務室：1		

③理念・基本方針

企業理念

「子どもたちの未来のために」

保育理念

「豊かに『生きる力』を育てる」

一人一人の子どもが、かけがえのない人生を豊かに歩いていくために、その人生のスタートである幼少期を「愛おしい存在」として認められ、その「命」を守られ、「心地よくいきいきと生きる」ことを最も重要と考えています。

子どもの気持ちを尊重し、受け止め、認めることで、子どもたちが「自己」を十分に発揮できるようにかかわって行くように心がけています。そうすることで周りへの信頼感が育ち、「自分は大切な存在」であると感じ取ってくれると考えています。子どもたちが日々の生活をとおして、「自分を大切に」「人を大切にする」という人として大切な力が育っていくよう、丁寧に、広い視野と客観性をもって保育を行っていくよう心がけています。

④施設・事業所の特徴的な取組

子どもたちの生活リズムや自主性を大切にし、丁寧な保育を行うことを大切にしています。

乳児クラス（にし組、1～2歳児クラス）の子どもたちは、同じ学年でも月齢に差があり、発達段階も個人差が大きいので、保育室はクラス別にして成長に合わせた玩具を準備していけるように環境を設定していますが、子どもたちはクラスにこだわらず、欲求や活動に合わせて保育室を行き来して遊んでいます。主活動は、生活リズムや体力なども考慮して2クラスを3グループに分けて活動し、無理なく生活が送れるように配慮しています。

幼児クラス（そら組、3～5歳児クラス）は、保育室がひとつで、異年齢で保育をしています。異年齢で過ごすことで、小さな社会が形成され、年上へのあこがれや、年下へのいたわりなどが自然と育まれ、学びが深まると考えています。主活動は、学年ごとに行うことが多いですが、目的によって、様々なグループを編成して担任が協力します。日々の保育は、子どもたちが興味のあることをさらに広げていくことを心掛けています。また、子どもたちが様々なことを自分たちで決められるように、話し合う場を設けるようにしています。

ランチルームがあるのも、園の特徴です。1歳児から5歳児まで、食事で使用する時間帯は、少しずつ異なりますが、同じクラス以外の子どもたちとのふれあいの場となっています。

また、食事で使用する時間以外は、多目的に使用できるホールの役割も果たしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月23日（契約日）～ 令和5年2月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2019年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもたちが主体的に活動できるような保育を実践しています

園では、幼児クラスの子どもたちが「子ども会議」を開き、職員がさりげなく援助しながら、その日の活動内容や行事について話し合っています。夏祭りでは「ヨーヨー釣り」や「ボーリング」「輪投げ」などの製作やそれぞれの役割などについて「子ども会議」で話し合いながら決めていき、子どもたちが主体的に準備を進めて夏祭りをを行い、自信と成長につなげています。

2)組織力向上に向けて職員全体で取り組んでいます

園では職員全体で意見交換を行いながら、園としての「行動指針」を策定し、情報共有のあり方や保育者自身が心にゆとりを持って保育を楽しむこと、子どもへの理解を深めることなどについて明記し、職員間で意識統一を図っています。年度始めに、作成した「園の年間目標」を達成するための具体策を職員全体で確認し合うなど、組織力の向上に向けて職員全体で取り組んでいます。

3)ドキュメンテーションを通して保育の質の向上につなげています

「ドキュメンテーション」を導入した結果、保育実践の振り返りを写真と記録で行い、子どもの興味や関心など個々の状況がより深く把握できるようになっています。保育内容や子どもたちの様子も職員同士が共有しやすくなり、互いの保育観や気づきを伝え合いながら、振り返りを行うなど「ドキュメンテーション」の活用を通して、保育の質の向上につなげています。

4) 人材確保の取組が期待されます

法人のホームページ上に職員採用情報を掲載し、動画で現職員のインタビューを配信したり、オンラインで園見学ができるようにするなど積極的に採用活動に取り組んでいますが、地域特性などから人材確保には至っていない状況です。より効果的な採用活動を検討するなど、今後のさらなる取組が期待されます。

5) 地域交流や地域支援の取組が期待されます

園では、3～5歳児の子どもが芋掘りで地域の農家の人と触れ合う機会を設けたり、見学に訪れる地域の保護者から育児相談を受けたりしています。今後は、子どもと地域との交流をさらに広げるための活動を検討するとともに、園の専門的なノウハウを地域に還元するなど、地域支援の具体的な取組が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

早いもので、開園して13年の月日が経とうとしています。その間、3年ごとに第三者評価を受けさせていただいております。受審させていただく度に、園の強みを再発見でき、また、課題も明確化されて今後につながる学びとなっております。評価機関の皆様には、丁寧に調査をしていただき、また親身になって助言や評価をしていただき感謝申し上げます。

また、保護者の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。いただいた貴重なご意見を大切にして、今後の園運営にいかしていきたいと考えております。

今回の評価では、子どもを中心とした保育の実践や保育の質の向上のための取り組みを評価していただきました。この結果は、職員の自信につながっていくと思います。今後も、子ども達が日々の生活や遊びを通して健やかに育ち、学びが深められるように、また保育者自身が心にゆとりをもって保育を楽しめるように努めていきたいと思っております。今後期待される取り組みとしてあげられた地域交流や地域支援の充実にもますます力を注いでいきたいと思っております。今回は、貴重な機会をありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり